

令和3年度 事業報告

I 公益目的事業に関する事項

令和3年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した。(別添参考)

- ① 八木宏典研究員「わが国水田農業の現局面 -2020年農林業センサスにみる-」
- ② 坪田邦夫研究員「外国人農業人材受入れの課題-その後」
- ③ 河原昌一郎研究員「中国の食糧政策の展開過程と今後の方向」
- ④ 矢坂雅充研究員「生乳市場の変容と指定団体の組織・機能をめぐる課題」
- ⑤ 田家邦明研究員「戦前の米の自由取引時代における流通過程と川下の支配力」
- ⑥ 小川増弘研究員「自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(9)」
- ⑦ 岩元明久研究員「つくば良農の耕畜連携実験構想について」

(2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

研究会の2テーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、また、研究企画委員会について令和元年度から発足し、それぞれ以下のとおり研究を行った。

① アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

平成29年度から標記テーマについての調査研究を実施してきたが、最新の動きを取り入れた分析結果を研究成果として報告書にとりまとめ、令和4年2月に「変容するアジア食料農業と農政」(日本農業研究シリーズNo.26)を刊行した。

② 地域農業事情に関する研究会

主査 田家邦明研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、主査による現地調査による京都府京丹後市に関する行政機関及び生産者から状況の聴取を行ったほか、zoomを使用したオンライン形式での研究会を1回開催するとともに、個別の研究会報告書を令和2年度に続き出版した。(別添参考)

③ 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和3年度研究企画委員会

第1回（令和3年6月17日開催）

講師：庄司 裕宇氏

「農村政策の展開方向について」

第2回（令和3年8月12日開催）

講師：秋葉 一彦氏

「みどりの食料システム戦略について」

第3回（令和3年8月20日開催）

講師：加藤 靖之氏

「令和2年森林・林業白書の内容について」

第4回（令和3年9月2日開催）

講師：田口 さつき氏

「令和漁業法下の資源管理について」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和3年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター調査研究部）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「日本の食の文化の戦後史」、山浦陽一氏「世代交代期の農業後継者の複業の意義と展望—定点観測4－2」、小澤卓氏「三島村の畜産振興と移住定住政策について（その1）」）を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

（4）実験農場における調査研究

実験農場においては、これまで当研究所自ら繁殖経営を実施するなかで、飼料生産部門と家畜飼養部門のそれぞれの課題について調査研究を実施してきた。

令和3年度からは調査研究の対象となる生産活動を自ら行うことは止め、調査研究の目的（耕畜連携の推進、連作障害の回避のための作目の組合せ、GAP実践の展示等）を設定し、それに沿った生産活動を計画的に行う農業生産法人（株式会社つくば良農）に農場の農地等を提供し、調査研究に資する生産活動を行わせる方法に変更した。研究員はその生産者から生産活動のデータの提供をうけ、それに基づき分析を行う調査研究を行うこととし、従来の畜産部門の研究員に農業技術・野菜部門の研究員を新たに加え2名体制で調査研究を行った。その研究成果を『農業研究』に掲載した。

なお、実験農場の運営に当たっては、当研究所及び農業生産法人を構成とした「実験農場連絡協議会」を設け、事業の実施状況等の把握を行った。

また、外部の学識経験者から成る「実験農場調査研究生産活動支援事業審査会」を設け、上記事業実施状況等の報告について意見を聞いた。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、陸前高田市長 戸羽太氏他3氏を招き、講演会を開催し、

参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考）。

令和3年度講演会

第1回（令和3年7月16日開催）

講師：戸羽 太氏

「ゼロからの復興ー一次産業の新しい可能性に挑むー」

第2回（令和3年8月23日開催）

講師：石川 賢一氏

「オーガニック牛乳生産の取組み」

第3回（令和3年9月17日開催）

講師：河原 昌一郎氏

「中国農村の土地問題」

第4回（令和3年10月20日開催）

講師：光元 信能氏

「実り豊かな農園づくりー次代へ繋ぐー」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に対し、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和3年度については、応募者から3名を選考し助成を行った。この成果は、令和4年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

- ① 井上 賢哉 明治大学大学院農学研究科博士後期課程
「和牛繁殖農家の血統選択と販売戦略に関する研究」
- ② 大學 寛和 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士前期課程
「農家民宿経営における費用構造と地域への経済効果に関する実証研究」
- ③ 遠山 裕基 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科研究生
「タイ東北部における稲作農家組織を主体とする農業支持の可能性と限界」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

農業に関する学術研究上顕著な業績を挙げ、斯学の発展に多大の貢献をなした者を表彰するため、日本農業研究所賞（隔年3件以内、賞金1件100万円）を授与している。

令和3年度は、第30回として定款及び「日本農業研究所賞表彰規程」第4条の定めるところにより、受賞候補者を公募し、選考委員会における審査を経て受賞者を下記のとおり決定した。なお、受賞者への表彰式はルポール麴町において、令和4年5月10日行った。

受賞者

研究業績の題名

寺田 文典：乳牛及び肉用牛の精密栄養管理技術の開発に関する研究

Ⅱ 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等9団体に貸し付けた。

Ⅲ 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和3年度の評議員及び役員等は、令和4年3月31日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

大杉立	(八ヶ岳中央農業実践大学校)
春見隆文	((一財) 日本醤油技術センター理事長)
菊地敦子	((一財) 公務人材開発協会代表理事)
古在豊樹	(千葉大学名誉教授)
佐々木昭博	(東京農業大学農生命科学研究so参与 (客員教授))
佐藤洋平	(東京大学名誉教授)
生源寺眞一	(福島大学食農学類教授)
染英昭	(穀物乾燥貯蔵施設協会理事長)
町田勝弘	(元農林水産事務次官)
松本光人	(元農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所所長)
吉田岳志	((公社) 大日本農会会長)

計11名

(2) 理事及び監事

理事長	田家邦明
常務理事	川勝哲
理事	市田知子 (明治大学農学部教授)
	小澤健二 (元 (公財) 日本農業研究所研究員)
	岸康彦 (元 (公財) 日本農業研究所研究員)
	鈴木昭憲 (東京大学名誉教授)
	竹内克伸 (弁護士)
	南波利昭 (前 (公社) 畜産技術協会会長)
	西尾健 (法政大学名誉教授)
	松本聰 (東京大学名誉教授)
	八木宏典 ((公財) 日本農業研究所研究員)

計11名

監事

	高濱正博 (元食品産業中央協議会常任理事)
	吉國隆 ((一財) 大日本蚕糸会顧問)

計2名

(3) 顧問

顧問	服部信司
----	------

2 評議員会及び理事会等

令和3年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回（書面決議）」令和3年6月18日（金）

同意した者13名（評議員総数13名）

付議され承認された議案

- ① 令和2年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 評議員の選任に関する件
- ③ その他

「第2回」令和4年3月23日（水）

出席者10名（評議員総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和4年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② その他

(2) 理事会

「第1回（書面決議）」令和3年6月1日（火）

同意した者11名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和2年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ 第30回（令和3年度）日本農業研究所賞受賞候補者選考委員会の委員委嘱に関する件

「第2回」令和4年3月15日（火）

出席者8名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和4年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ 第30回（令和3年度）日本農業研究所賞受賞者の決定に関する件
- ④ その他

(3) 監事監査

令和3年5月13日（木）

出席者2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

令和2年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職員

令和4年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員7名、総務部長（兼）1名、参事1名、助手1名

計10名

実験農場 研究員 2 名

計 2 名

4 図 書

令和 3 年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和 3 年度収書数

区分	雑 誌 等			単行書（冊）			備 考
	和	洋	計	和	洋	計	
購入	122	0	122	14	4	18	
受贈	299	0	299	46	0	46	
計	421	0	421	60	4	64	

蔵書数

区 分	数 量	備 考
単行書前年までの累計数	21,929 冊	
令和 3 年度廃棄数	4 冊	
令和 3 年度登録数	64 冊	購入、寄贈等
単行書計	21,989 冊	

(注) 資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

(参考) 令和3年度における主要調査研究成果

* 『農業研究』 (日本農業研究所研究報告第34号)、令和3年12月、B5、381頁

目次内容

- ・わが国水田農業の現局面－2020年農林業センサスにみる－ (八木宏典)
- ・外国人農業人材受入れの課題－その後 (坪田邦夫)
- ・中国の食糧政策の展開過程と今後の方向 (河原昌一郎)
- ・生乳市場の変容と指定団体の組織・機能をめぐる課題 (矢坂雅充)
- ・戦前の米の自由取引時代における流過程と川下の支配力 (田家邦明)
- ・自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究 (9) (小川増弘、吉沢 哲、宮下好広)
- ・つくば良農の耕畜連携実験構想について (岩元明久)
- ・日本の食の文化の戦後史 (森田 明)
- ・世代交代期の農業後継者の複業の意義と展望－定点観測4－2 (山浦陽一)
- ・三島村の畜産振興と移住定住政策について (その1) (小澤 卓)

(特別寄稿)

- ・出土木簡からたどる水稻在来種の1300年 (西尾敏彦)

(令和2年度人文・社会科学系若手研究者助成事業 研究成果)

- ・飼料米を利用した鶏卵のフードシステム－生協を中心とした取り組みの場合 (山野 薫)

* 『農業研究』 (別冊) 第9号、令和3年12月、B5、205頁

令和3年度日本農業研究所講演会記録

目次内容 (敬称略、講演会開催順)

ゼロからの復興－一次産業の新しい可能性に挑む－

(講師 戸羽 太)

(解題 両角和夫・平岩裕規)

オーガニック牛乳生産の取り組み

(講師 石川 賢一)

(解題 矢坂 雅充)

中国農村の土地問題

(講師 河原昌一郎)

(解題 坪田 邦夫)

実り豊かな農園づくり－次代へ繋ぐ－

(講師 光元 信能)

(解題 岩元 明久)

* 地域農業事情に関する研究会報告書 (主査 田家邦明研究員)

その3 令和3年4月、B5、77頁 「京丹後市の農業の展望」

その4 令和3年6月、B5、89頁 「丹後国営農地開発事業の評価」